

ピアノ・ミュージックフェスティバル・セレクション 4

1. 優しいあの子／スピッツ

SMFあり

☆☆☆☆☆

Aの左手は2分音符ですが、2拍目、4拍目もしっかり感じ、楽しく軽快に弾きましょう。メロディーの同音連打は難しいですが、跳ねて短くなりすぎないように、かつ重くならないようにしましょう。**B**に入ると一転し、曲の感じが変わります。切なく歌ってください。**B**の最後の2小節目から**C**のサビに向かってクレッシェンドしていきますが、**C**の最初の4小節は盛り上がることなく静かになります。優しく歌ってください。一曲の中に様々な表情があります。楽譜自体の音符は少なく、音域も狭い為、それぞれの場面の弾き分けが難しいと思います。原曲をよく聴いてイメージをつかんでください。ミュージックデータに合わせる際はミュージックデータ（変わっていくリズム、弾いていない音等）をよく聴きましょう。特に長い音価、休符のところはミュージックデータの音をよく聴けばミュージックデータにも合い、アンサンブルを感じることができるでしょう。

2. カントリー・ロード(Take Me Home, Country Roads)／ジョン・デンバー

SMFあり

☆☆☆☆☆

明るく、リズムカルな曲です。リズムに乗って楽しく演奏しましょう。付点やシンコペーション、タイのついた音が多い曲ですので、しっかりと拍を感じながら音の長さを守って弾きましょう。**C**、**E**は左手2、4拍目の4分休符を感じ、1、3拍目の4分音符の粒を揃え、軽快に弾きましょう。ファに#がつきますので黒鍵を使うところが出てきますが、その直前にのせるのではなく、手首を上げて指をまるめ、なるべく、いつも黒鍵にのせておきましょう。右手の8分音符は指がすべらないよう、拍を感じてていねいに弾きましょう。強弱のマークに注意して、メリハリをつけて演奏しましょう。ラストのアクセントがついた音を元気に弾きましょう。

3. パブリカ／Foorin

SMFあり

☆☆☆☆☆

2020 応援ソングとして、米津玄師がプロデュースした曲です。5人の小学生ユニット「Foorin」の元気あふれる歌声とはじけるようなダンスが、曲の楽しさをより一層引き立てています。アーティキュレーションが細かくなっています。スラーはとても大切な記号です。イメージをつかむために、原曲を良く聴いてみましょう。また、指の運び方を工夫して滑らかに演奏するとともに、フレーズも大切にしながら、スラーの終わりに向けてフワッと抜くようなタッチで弾いてみましょう。左手は、メロディーを支える大切な役割がありますので、頑張って習得してください。**C**からの転調が効果的になるよう、音の広がりを味わいつつ、気分を変えてサビを盛り上げましょう。それに続く**D**では、少しニュアンスが変化し、再びサビへと続きます。それぞれ特徴あるフレーズを意識しながら、メリハリのある演奏を心掛けてください。

4. カリキュラマシーンのテーマ／宮川 泰

SMFあり

☆☆☆☆☆

カリキュラマシーンは1974-1978年まで放送されていたテレビの教育番組で、セサミストリートを目標として制作されたナンセンスなコントなど斬新な演出でした。色々な番組のBGMに使われていましたが、現在は「チョコちゃんに叱られる」の番組テーマソングに使われています。元気に楽しく演奏しましょう。**A**、**B**、**D**、**E**のメロディーの16分音符は無理のない指使いを考えて、音のツブが揃うようによく練習してください。細かい音符は力が入り過ぎると弾きにくくなるので気をつけましょう。左手は拍をよく数えてテンポを安定させ、メロディーとタテを揃えましょう。

5. Earth／村松 崇継

SMFあり

☆☆☆☆☆

原曲は「世界中を旅しているフルート奏者が、自らの奏でた音色で地球を救う物語」をイメージして作られました。スラーの付いたメロディーは、フルートの音色のようになめらかに歌うように意識して弾いてください。また、メロディーに寄り添う伴奏はオーケストラをイメージし、場面毎に何の楽器で演奏しているのか、想像を膨らませながら演奏してみましょう。この曲は、場面によって曲調が変化します。冒頭のTempo rubato arioso(自由なテンポで歌うように)や、**D**のespressivo(表情豊かに)など、曲調に合わせた自由な表現で、伸びやかに演奏しましょう。強弱記号のfが乱暴にならないよう、全体に優しい音色を心掛けてください。

6. 愛にできることはまだあるかい／RADWIMPS ~映画『天気の子』より

SMFあり

☆☆☆☆☆

A力強いアカペラで始まり⇒**B**淡々と語りかけるように歌う。⇒**D**後半～**E**徐々に力強さが加わり、⇒**G**、**H**強く気持ちを伝える。⇒**I**、**J**再び静寂がやってきて、ささやくように大切なメッセージを伝える。

このストーリー展開をイメージして演奏しましょう。**B**、**D**のメロディーの16分音符は、やさしいタッチで走らないようにしましょう。**G**の左手アルペジオは、強すぎると重たくなるので、メゾフォルテに近い強さで弾いた方が、バランスが良くなります。**H**最終小節で気持ちを整え、**I**からは静かにささやいてください。

7. イントゥ・ジ・アンウン／イディナ・メンゼル ～映画『アナと雪の女王 2』より

SMFあり

★★★★☆

ドラマチックで表情豊かな楽曲です。全体を通して語られるように進むメロディーを丁寧に歌うようにしましょう。フォルテになった時は自信に満ちたように、左手の伴奏もリズムカルで正確に、しかし乱暴にならないよう心がけてください。音飛びや転調的なアプローチが多いのでミスタッチや楽譜の読み間違いに気をつけましょう。Eの部分の急激なテンポの変化などは、ミュージックデータをよく聞いて、その雰囲気やタイミングをしっかりと感じながら演奏してください。ペダルはそれぞれの場所で効果的に使うようにしましょう。例えば、出だしの音を繋げるためのペダル、そしてDの部分でパワーアップのために使用するペダル、楽曲の性格を考えて細かく短く踏むなど工夫してみましょう。

8. 「ミッション」より／エンニオ・モリコーネ ～映画『ミッション』より

SMFあり

★★★★☆

映画「The Mission」より、3曲のメドレーになっています。Aはオーボエが自由に奏でる美しいフレーズが印象的な曲で、ピアノでいかに抑揚をつけるかがポイントです。ブレスを考えたフレーズング、内声の動きや音量バランスなど、ハーモニーを意識したピアノならではの表現を目指しましょう。Bからは、アルペジオの中にシンプルなメロディーラインが入っています。滑らかにうねるようなイメージで。Eからは、元は大人数によるコラル風の中でAのフレーズが拍割りを変えて登場し、混沌としながらクライマックスを迎えます。8分音符と3連符が入り混じるところでリズムが乱れないよう、大音量で最後まで弾ききってください。

9. ヒム・フォー・ザ・ウィークエンド／コールドプレイ

SMFあり

★★★★☆

右手に組み込まれたメロディーとコード伴奏をしっかりと弾き分けましょう。8分音符のコード伴奏はばらばらにならないよう音量やタイミングを揃え、また切れないようにペダルをうまく使って演奏しましょう。コードの変化が早いので、音の響きに注意しながら細かくペダルを踏むようにしてください。16分音符のシャッフルは厳格にくっきり表す必要はなく、ノリを体で感じながらさりげなく表現できるようにしてください。まずはミュージックデータを聞きながらその雰囲気を掴みましょう。

10. 春と修羅／藤倉 大 ～映画『蜜蜂と遠雷』より

SMFあり

★★★★☆

ピアノコンクールを舞台とした小説に基づく映画『蜜蜂と遠雷』のために、コンクールのための新作課題曲という設定で作られたピアノ作品です。物語での設定通り現代音楽らしい無調の曲で、主題と変奏、さらに演奏者の自由な即興に任されるカデンツァ、という構成から成ります。ここでは比較的シンプルな最初の主題と第一変奏、そして物語の登場人物である高島明石が、曲のタイトルでもある宮沢賢治の詞の一節「あめゆじゅとてちてけんじゃ」の言葉に触発されて作ったという設定のカデンツァ部分を抜粋しました。この課題曲集で無調の曲は異例ですが、難しく考えずに、抽象画のように音の響き・色彩そのものを楽しんで、自分なりの音色やイメージで表現してみましょう。Bの変奏では、トップノートが主題の旋律であることを意識してきれいに浮き上がらせてください。

※譜面にも詞の一節が記載されていますが演奏時に歌うなどの必要はなく、演奏に影響するものではありません。

11. エル・カミーノ・レアル／A. リード

SMFあり

★★★★☆

吹奏楽の巨匠、アルフレッド・リードによる人気の大作をピアノにアレンジしました。曲は全体にフラメンコのコード進行やその雰囲気をモチーフとしたもので、リズムも「ホタ」「ファンダンゴ」といったスペイン由来のものを基盤としています。テンポの速い部分は情熱的に、中間のゆったりした部分は情緒たっぷりに、大編成の管楽器の豊かな音色のイメージを表現しましょう。演奏では拍のリズムを意識するだけでなく、速いフレーズでも個々の音のはっきり鳴るようにすることが大切です。またアーティキュレーションやペダルの工夫によって、対旋律などパートの区別と立体感を表現できるとよいでしょう。中間の遅い部分は、基本のテンポから逸脱しない範囲でメロディーをある程度自由に揺らして表現するのもよいでしょう。

12. カレイドスコープ／上原 ひろみ

SMFあり

★★★★☆

作曲者の上原ひろみさんは、この曲について「万華鏡の中で色が幾何学的に混じり合い、ある機械性を伴って色彩が広がっていくイメージを音の広がりでも表現した曲です。」と語っています。冒頭は無機質な感じであり感情を込めず、Bからは両手をうまく組み合わせて、メロディーがしっかりと聴こえるよう意識して演奏しましょう。右手と左手でリズムの違う箇所は、身体全体でリズムを感じましょう。アクセントやスタッカートを意識し、強弱や音色の差をはっきりとさせ、キレの良い演奏を目指しましょう。原曲はソステヌート・ペダルを多用して演奏されています。全体的にペダルの使い方を工夫して、リズム感が損なわれないよう注意しましょう。